

【中央アジアのエネルギー】**ガスを「ヨーロッパ価格」で売るために中央アジアが団結¹****nCa ニュースと論評**

Ashgabat、2008年5月12日——Gazpromの公式発表によると、来年から中央アジアのガス生産者はそのガスをヨーロッパ価格で売ることになる。

この決定は火曜日のカザフスタン、ウズベキスタンおよびトルクメニスタンの高官とGazpromのCEOであるAlexi Millerとのモスクワでの会合のあとで行われた。

KazMunaiGaz社長 Uzakbay Karabalin、UzbekNeftGaz会長 Numuhammad Ahmedov および TurkmenGaz 会長 Yagshygeldy Kakaev がこの会合に出席した。

Gazpromはこの決定は、「信頼性が高く滞ることのないエネルギー供給を確立するための国際的な義務を考慮した国家の経済利益」に基づいている、と語る。

Gazpromの公式発表は2009年の「ヨーロッパ価格」がどのようなものであるかは説明していないが、最近の価格を見れば参考にできる。

複雑な公式、経済的ならびに政治的な可変要素に基づき、Gazpromは各顧客との2者の協議のあとで価格を決定する。2008年、ヨーロッパの顧客に対する平均価格は1,000m³あたりおよそ350~360米ドルとなる。

nCa の論評

人はロシアが中央アジアの生産者をこの合意に追い込んだとの印象を持つかもしれない。これはせいぜい部分的にしか真実ではない。

ウクライナは明らかにこの取り決めによって最も深刻な打撃を受けることになる。しかしながら、ウクライナに同情を感じる前に、ウクライナ自身の傍若無人な振舞いがこのような状態に至らしめたことを思い起こすべきである。さらに、2011年までにウクライナは

¹ 出所：“Central Asia Teams up to Sell Gas at ‘European Price’”, NewsCentralAsia(nCa), 12 March, 2008

いずれにせよ完全なヨーロッパ価格に移行することになっていた。すなわちモスクワにおける火曜日の会合でなされたすべては、この予定表を2年前倒しすることである。

しかしながら、価格政策はウクライナと合意したわけではない。

一方では中央アジアの生産者の力が強くなっていることが明らかになり、他方ではプーチン政権が終わりに近づいてクレムリンにおける何かパニックのようなものを露呈している。

中国への代替のパイプラインやカスピ海横断パイプラインに対する計画的な動きのような外的要因があり、これらがロシアの心にある種の神の恐れのようなものを植えつけてきたのかも知れない。

これは、Gazpromが、かつて中央アジアの生産者との全くの不公平な取引において全能以上の力を発揮していた Rem Vyakhrev の時代とは大違いである。昔は昔、今は今である。

心に留めなければならないことは、天然ガス価格の値上げにおいてどの程度まで可能かということに関しては限度があるということである。

ヨーロッパはガスを主として発電用に購入している－ヨーロッパで消費するガスの80%以上が発電向けである。

代替技術が急速に発展しつつあり、次の5年あるいはもっと早く変化が起きて、石油やガスを燃やすことなくリーズナブルなコストで発電が可能なくつかの技術が利用できるはずである。

事実、そのような技術は既に存在するが、それらは天然ガスに比較して高くつく。一方では天然ガスの価格が上昇しつつあり、他方では代替技術のコストが減少しつつある中で、天然ガスを見捨てて代替の方法にスイッチする値打ちのある転換点があるかもしれない。

アドバイスを行うとすれば、ロシアと中央アジアの生産者は天然ガスの販売に依存するのではなく、下流部門を発展させることにもっと注力することが求められている。

(エイジウム研究所 研究主幹 酒井 善正)